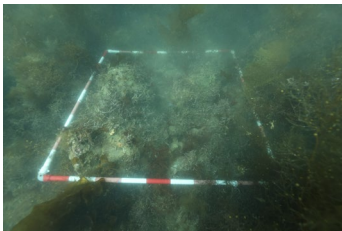
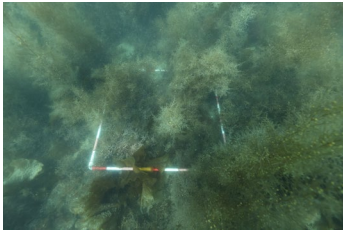


【対象面積の海藻類について】  
ヤツマタモクが優占している。  
その他にヨレモクモドキ、マメタワラ、ウミウチワ、カギケノリ、ツカサアミ、スギノリ、オバクサ、ヒロメ、ソゾ属、アオサ属、ミル属等が見られた。また、2月頃には一面をフクロノリが覆う。

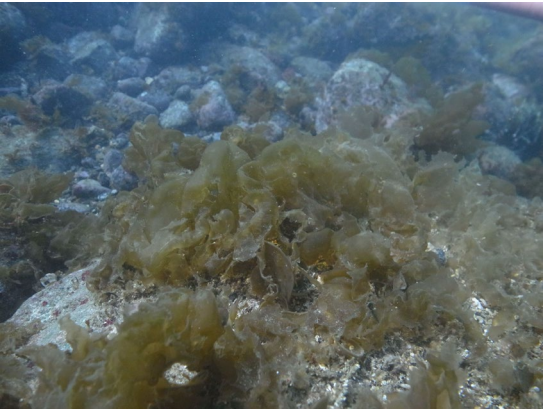
【湿重量の計測】  
ツボ狩りは、対象面積の海藻類を代表する海藻が生育する場所（被度80％）において1m方形枠を設置し、枠内の海藻を採取して重量（kg）を計測した。

【含水比の算出】  
採取した海藻のうち一部の海藻を十分に乾燥させ、重量を測定して乾重量/湿重量より含水率を算出した。

【P/B比の算定】  
横山ほか、1999の文献および採取した海藻の高さからP/B比を算定した



※袋重量0.37kg含む



2月頃、  
全体を覆う  
フクロノリ

単位面積当たりの湿重量：10.87kg/m<sup>2</sup>  
10.87 × 10 = 108.7t/ha

湿重量 ⇒ 乾重量  
80℃で48時間  
128.92 g ⇒ 23.54 g  
169.06 g ⇒ 27.50 g

含水率：平均82.73%

【ヤツマタモク】  
P/B比：1.5

【確実性評価について】  
ツボ狩り時において、全面をヘラで綺麗に剥ぎ取ってしまうと翌年に生えづらい為、ある程度の長さを残している。そのため、湿重量及び含水比、P/B比に対して過小評価を行っており、吸収係数に係る自己評価を100とする。